

尊厳死について講演する長尾和宏医師
25日午後、松山市



患者の自己決定重要

尊厳死講演会で医師訴え 松山

尊厳死を考える講演
会が25日、松山市三番
町6丁目のコムズであ
った。日本尊厳死協会
副理事長で長尾クリニ
ック（兵庫県）院長の
長尾和宏医師が「尊厳
死は患者の満足と納得

が重要。周りの人は患者の自己決定を支えてあげてほしい」と呼び掛けた。えひめ尊厳死を考える会が主催し、市民ら約100人が尊厳死について考えた。

長尾医師は「過剰な延命治療ではなく、緩和医療に重点を置く尊厳死は、人工的に死期を早める安楽死とは異なる」と強調。ただ、周囲の人には終末期が十分に判断できず、延命を中止するタイミングが分からないのが実情だと述べた。
2030年には、国

内の年間死者が約50万人増え、約170万人になると推計。現状では在宅で亡くなる人の割合が約10%、自分で死期を決める人の割合が約1%と説明した。

（山岡雄大）

■JAL伊丹―松山
往復便に遅れ 25日午
前7時55分伊丹発松山
行き日本航空便（乗客
31人）は、伊丹空港出
発時のエンジン整備の
ため到着が約1時間遅
れた。折り返し便（30
人）も出発が約1時間
遅れた。

2014.5月26日(A)

愛媛新聞

社会面